

厚生労働省「令和6年度及び令和7年度当初認知症総合支援事業等実施状況調べ」による県内市町村の状況について（暫定値）

1. 目的

認知症総合支援事業の状況等を把握することにより、今後の認知症施策の方向性を検討するに当たっての基礎資料とする。

2. 調査時期 令和7年6月～7月

3. 調査対象 都道府県及び市町村

4. 県内市町村の状況

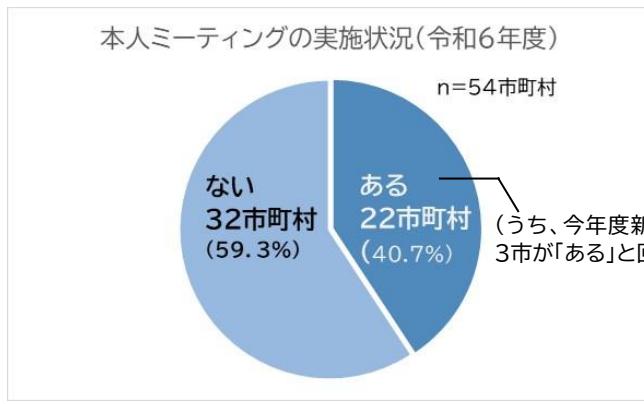
（1）本人ミーティングの実施状況（実施主体は市町村に限らない）

本人ミーティング実施市町村数 22市町村（令和6年度調査）

（23市町村（令和5年度調査））

【設問①】

本人が集まり、本人同士で自らの体験や必要なことを話し合い、その内容を発信、施策に反映する機会があるか。

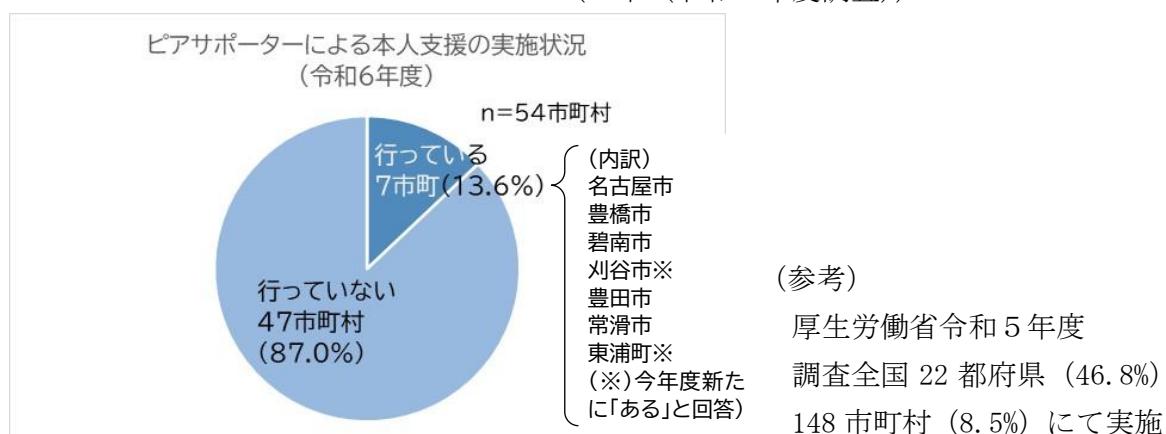


【設問②】

ピアサポーターによる本人支援の活動を行っているか。

ピアポーターによる本人支援実施 7市町（令和6年度調査）

（7市（令和5年度調査））

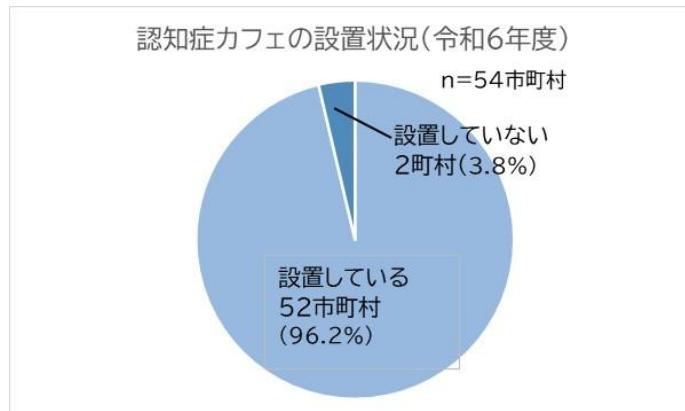


※本設問の「ピアサポーター」とは、先に認知症の診断を受け、その不安を乗り越え前向きに明るく生きてきて思いを共有できる認知症の人本人をいう。

(2) 認知症カフェの設置状況（設置主体は市町村に限らない）

認知症カフェ設置数 603か所（令和6年度末時点）

（583か所（令和5年度末時点））



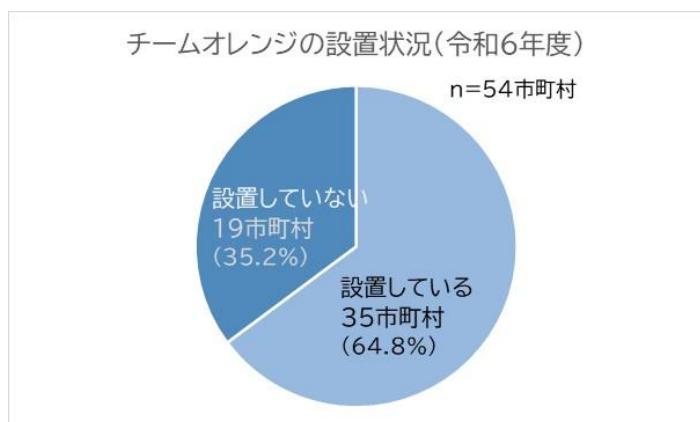
（参考）

厚生労働省令和5年度調査全
国1,593市町村（91.4%）にお
いて、8,558か所設置

(3) チームオレンジの設置状況

チームオレンジ設置市町村数 35市町村（令和6年度調査）

（26市町（令和5年度調査））



（参考）

厚生労働省令和5年度調査全
国593市町村（34.0%）にお
いて、1,895チーム設置

〔参考〕チームオレンジ設置チーム数 144チーム（令和6年度末時点）

（46チーム（令和5年度末時点））

※本設問の「チームオレンジ」とは、『チームのコーディネーター研修テキスト「認知
症サポーターチームオレンジ運営の手引き』で示されている「チームオレンジの三つ
の基本」を満たすもの』と『3つの基本は満たさないものの、本人・家族のニーズと
ステップアップ講座を受講した認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み
が構築されているもの』の合計数